

# 論 說

## 簡易鋪裝に就て

橋 本 圭 三 郎



近時失業者數益々多く、之れと關聯して道路問題が朝野の間に喧しく成つて來た。

世界大戰後の歐洲各國、即ち英佛伊は素より獨露何れの國でも戰後失業者激増の際之れに處するの途として、土木事業就中道路の改良、新設、延長等を盛んにしたのが、最も有效な對策の一であつた事は何人も之れを知つて居るのである。

我が日本に於ても、目下同様の現象が萌して居る。即ち首都は勿論各府縣とも新たに道路事業を起し、一方失業者を救濟すると同時に、他方産業振興の基礎を確立せんとする氣運が盛に成つて來た。之れ蓋し當然の歸趨と云はなければならぬ。依て此の機會に自分が平素道路に就て考へて居る所を述べて見る。

それは所謂簡易鋪裝の事であるが極めて手近な例を以て言ふならば東京市の施工せる簡易鋪裝中數年前に竣工して今日尙優良の成績を示して居るのは青山南町三丁目から青山墓地内を縦斷して霞町へ出る道路である。此處は路面に勾配もあり排水も宜しく交通物としては乗用自動車と歩行者であり牛馬車、トラツク等の重量物は通らず所謂輕交通と云ふのであらうが極めて善く維持されて居る。

之に反して昨年頃竣工した簡易鋪裝中市ヶ谷見附外士官學校前から合羽坂下に至る道路の如きは最近施工の一例であるが此處は乗用、貨物自動車、荷車等の往來頻繁で路面の摩損も激しく常に砂塵を揚げて居る。摩損に對しては石屑を撒き、アスファルト液を撒布して、絶えず修理を行ひ、砂塵に對しては一日中幾回となく撒水して之れを防いで居るが折角撒布されたアスファルト液は、充分石屑に附著せず、一部は流れ去つて又石屑が現はれる。そこで再びアスファルト液を撒布すると云ふが如く、絶えず斯かる操作を繰返して居る。

自分は素人なるが故に其の鋪裝費が幾何であるか、又毎日の様に行ふ修理及び掃除の爲に幾何の費用を要するのであるか、それは知らないが、とにかく最初の鋪裝費の割合に爾後の維持修繕費に多額を拂つて居る事は想像に難くは無い。従つて斯かる場所に此種の鋪裝は全く不適當であると云ふ事が出来る。

又他の一例として、之れも最近出來上つた簡易鋪裝で、赤坂區安針坂に施されたものを擧げる。こ

れは何人も知る様に、明治神宮外苑權田原口から東宮御所正門前に至る坂路で、右に東宮御所及び近頃御竣工になつた皇太后宮御所が在るが、何分にも四谷方面から青山方面への近道である爲め、乗用車、貨物車共に頻繁に疾驅して居る。此の舗装は簡易中の簡易とも見らるゝ最も低級のものであつて、砂塵の飛散は夥しいものである。それが冬季北風に吹かれて、兩御所内に飛び込む様な事はないかと誠に恐懼に堪へぬ次第である。尙爰に何人も不注意に看過して居る一事がある。それは衛生の事である。自分は往年眼を患つた。専門醫は軽いトラホームと診斷して、其の手當をして呉れたが、治癒は中々困難であつた。當時汽車中櫻井博士に會ひ、談偶々其の事に及んだ處、博士は「東京市の道路には多く多摩川砂利を用ひて居り、之れが車輪に粉碎され砂塵となつて飛散するが、其の一つを顯微鏡下に檢すると全く丸味の無い極めて稜角の鋭いもので、之れが目に入れば、忽ち眼球を傷ける。即ち之れが東京市にトラホーム其他眼疾の多い原因をなして居る。」と話された事を想起するが、更に之れが呼吸器に及ぼす影響も亦尠くはないと考へられる。

自分は東京市施工の簡易舗装に使用せられた石屑が、交通物によつて微粉となつたものを顯微鏡下に覗いた事は無いが、風吹く度に都下六十萬の屋内に飛び入り、机上、床面、衣服調度を汚損し、又日々交通する百萬市民の眼球、口腔、肺臓に侵入する事を思ふ時、非常な危惧の念に襲はるのである。

東京市が今後尙今日の如き簡易舗装を市内一般に施工する事ともならば、眼疾や呼吸器病患者の益々増加する事は疑ない事である。砂塵の飛散を防止するため、現在撒水を行つて居るが、一日に數

同では其用をなさぬ。幾十回も撒水せねばならぬが、其の費用は相當多額に上るであらう。又淨水節約の上から、中には汚水を撒くものもあるが、それは衛生上以ての外、事と云はねばならぬ。

要するに、前述の様な簡易舗装は、適所に施工されれば、相當良好の成績を顯すが、一朝其適用を誤れば、經濟上からは勿論、衛生上から見ても、大失敗を招くものである事を銘記せねばならぬ。

即ち簡易舗装必ずしも不可なるにあらず。其の適否の判定が大切なのである。如何に經濟國難の際であるとは云へ、重交通の街路に簡易舗装を採用する事は、上述の實例に見ても分る様に所謂安物買の錢失ひであつて、經濟難を一層大にするものである。又輕交通の街路であつて、簡易舗装を以て充分なりとする場合に於ても、亦その方式の適否に就て慎重の考慮を要する。聞くところに依れば、簡易舗装にも種々なる方式があり、従つて其工費も一樣ではないとの事である。故に簡易舗装であるからと云つて、最も工費のかゝらぬものを選ばうとするのは、思慮なき事、其の結果は矢張り安物買の錢失ひである事を忘れてはならぬ。自分をして率直に言はしむれば、斯様な點に就て一體當局者は十分考究されて居るかどうか甚だ疑はしいと思はれるのである。

毎月本誌上に於て、斯界知名の士の貴重な意見の發表を見て居る。自分は随分注意して拜見して居るが、上述の點に就ては未だ誰からも御意見を聽かない。如何にも黙し兼ねて茲に卑見を述べた次第である。斯かる素人觀も、亦他山の石として識者の一顧を得れば、筆者の幸である。

(附記) 東京市は一面に於て、數十萬坪かの立派な舗装道路を持つて居るが、甚だ遺憾な事には其修

理と清掃とが充分行はれて居らぬ。殊に雨天の翌日は未舗装道路から運ばれた泥土のため非常な砂塵である。當事者は撒水によつて一時的に飛散を防いで居るが、乾けば又飛散するので、絶えず撒水を繰返さねばならぬ。斯かる方法は實に消極的のもので、市民の中から舗装後反つて砂塵が多くなつたと云つて、舗装を呪咀する聲を聞くのは何たる皮肉であらう。

筆者曾て米國首府ワシントン市に遊んだ當時、日本公使館當時は未だ大使館ではなかつた前の道路を一人の指揮者と數名の人夫で修理して居るのを見た。館員の談によれば、降雨の際道路技師が雨中馬車當時は勿論未だ自動車は無かつたを驅つて隈なく街路を調べ修理すべき箇所を記録し路面には印を付けて置き、翌日係員と人夫が來て其修理をするので、今施工して居るのは昨日マークした所であるとの事であつた。蓋し雨の日は道路の凹みが判然するので、特に斯様な日を選ぶのである。歲月流れて將に數十年翻つて今日日本の状態を觀るに、寡聞にして何れの都市を不問未だ斯かる用意周到なる制度あるを知らぬ。

又昨年十月東京で催された萬國工業會議並に動力會議に集つた各國の名士は、口を揃へて東京市の復興が立派に完成した事を讃へたが、唯一遺憾且つ不愉快に感じた事は街路の濛々たる砂塵であると云つた。又最近獨逸から見えた一紳士が自分に向つて、私が東京市へ參つたのは之れで二度目である。數年前一度本國へ歸つた時は伯林の街路が清潔になつた事を特に感じました。今度東京へ來て街路が立派に舗装された事に驚き、同時に砂塵の多いのに呆れましたと話したの

に對し、私は唯苦笑の外は無かつた。

平素清潔を誇る日本人が、道路の清掃に無關心であるのは、國際人として如何にも恥づべき事では無いか。自分は官民相援けて今後此方面に努力し、實際的效果を擧ぐる事の一日も早からん事を希望し、敢て世に訴ふるものである。

若し自分の希望が容れられるならば、差當り東京市に十數臺の清掃自動車の運轉を熱望して止まぬのである。然し今直ちに其實現は期し難いであらうから、先づ當面の問題となつて居る失業勞働者に撒水車と箒とを興へて鋪裝道路の清掃と水洗をさせては如何。斯様な仕事は何等熟練を要せず、誰にも直ちに出来る事であつて、道路の維持上からも、衛生上からも、亦一面失業救済の上からも一舉三得の妙案では無いかと思つて、思付きの儘を茲に附記して置く次第である。

